

平成19年
11月29日

病害虫発生予報 12月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

全ての農作物に残留農薬基準が設定されています！！

薬剤散布の際は周辺作物へ飛散しないよう十分注意しましょう

< 目次 >

. 今月の予報	
【注意すべき病害虫】	
イチゴ：アブラムシ類，ハダニ類	1
促成ピーマン：タバココナジラミ類	2
【その他の病害虫】	2
イチゴ，促成ピーマン	
. 病害虫ミニ情報	
イチゴのうどんこ病とハダニ類について	3
. 今月の気象予報	
	5
. テレホンサービス	
	5
029(226)5321, 6131	
農薬登録速報については，農林水産省ホームページ「農薬コーナー」 http://www.maff.go.jp/nouyaku/ 内の登録速報を参照してください。	
詳しくは，病害虫防除所へお問い合わせ下さい。 茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445 予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。 ホームページアドレス http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/	

. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ

1. アブラムシ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

11月下旬現在，平年よりやや多い発生である。

気象予報によると，向こう1か月の気温は平年並か高いと予想され，発生をやや助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

発生が多くなると防除が困難となるため，発生の少ないうちに防除する。また，冬期に発生が見られると，気温の上昇にともない春期の発生が多くなる傾向があるので注意する。

薬剤散布にあたっては，下葉を取り除き，葉裏や葉柄にもよく付着するよう十分な量で丁寧に散布する。また，収穫前日数等にも十分注意する。

薬剤抵抗性アブラムシ類の出現を防ぐため，系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

2. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

11月下旬現在，平年よりやや多い発生である。

気象予報によると，向こう1か月の気温は平年並か高いと予想され，発生をやや助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

発生が多くなると防除が困難となるため，発生の少ないうちに防除する。また，冬期に発生が見られると，気温の上昇にともない春期の発生が多くなる傾向があるので注意する。

薬剤散布にあたっては，下葉を取り除き，葉裏や葉柄にもよく付着するよう十分な量で丁寧に散布する。また，収穫前日数等にも十分注意する。

薬剤抵抗性ハダニ類の出現を防ぐため，系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

促成ピーマン

1. タバココナジラミ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
	やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

11月下旬現在，幼虫，蛹の寄生葉率及び発生地点率は過去3年中最も高い。
 気象予報によると，向こう1か月の気温は平年並か高いと予想され，発生をやや助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

発生が多くなると防除が困難となる他，果実にすす症状を生じるため発生の少ないうちに防除する。

薬剤散布にあたっては，葉裏によく付着するよう十分な量で丁寧に散布する。

薬剤抵抗性タバココナジラミ類の出現を防ぐため，系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	じゃのめ病	発生量：やや多い	11月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	ハスモンヨトウ	発生量：やや多い	11月下旬現在，平年より多い発生である。今後は，気温の低下にともない発生は終息する。
促成ピーマン	アザミウマ類	発生量：平年並 ～やや多い	11月下旬現在，平年並からやや多い発生である。

イチゴのうどんこ病とハダニ類について

イチゴは栽培期間が長いため、様々な病害虫が発生します。今回はその中から、果実等にも被害を生じて特に問題となるうどんこ病と、本年は例年よりも発生が多い傾向にあるハダニ類について紹介します。

うどんこ病

イチゴうどんこ病は、果実、葉、果梗などイチゴの各部位に発生します。多発生すると防除が困難となり、特に果実に発生すると商品価値がなくなることから、イチゴの重要病害となっています。

1. 発生生態

イチゴうどんこ病菌は、キュウリ、ピーマン、トマト等のうどんこ病菌とは種類が異なります。イチゴ以外の植物にはほとんど感染が認められないので、イチゴからイチゴへ伝染を繰り返すと考えられています。

曇雨天などで日照不足になると、胞子の形成が促進され、晴れた日の午後に胞子が多く飛散します。胞子の発芽適温は17~20℃と、他の作物のうどんこ病菌と比べてやや低く、発病適温は20℃前後です。多くの病原菌の胞子は、水滴がないと発芽できないのに対し、うどんこ病菌は、空気中の湿気でも発芽します。このため、高湿度であるほど多く発生しますが、湿度50%程度でも発生します。

2. 近年及び本年の発生経過

当所の調査において、イチゴうどんこ病は、平成13年及び平成15年に苗及び本圃で多発生しました。例年、7~8月は高温によりうどんこ病の発生が一時停滞します。ところが、平成13年は8月の、平成15年は7~8月の平均気温が平年より低かったことから、育苗期である夏季に発生が多くなったと考えられます。本年は、梅雨明けが遅れたこともあり、7月の気温は平年より低く、梅雨明け後の8月は高く推移しました。そのため育苗期では、本病の発生が見られた時期もありましたが、8月以降の発生は多くありませんでした。本圃定植後も同様な状況で推移し、11月下旬現在、発病葉率・発生地点率ともに平年並からやや少ない発生となっています。

3. 防除対策

- 1) 罹病した葉や果実などはハウス内に放置せずにハウス外へ持ち出し、土中深く埋めてください。
- 2) 耐性菌の出現を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション散布をこころがけましょう。また、薬剤は、十分な量で葉裏や葉柄までよく付着するよう丁寧に散布しましょう。
- 3) ミツバチ導入後は使用できる薬剤に限られるため、薬剤を選択する際はラベル等で確認してください。

ハダニ類

ハダニ類は主に葉を食害しますが、多発生すると果実にも被害を生じます。ハダニ類の増殖は速く、多発生すると防除が困難となるため、発生初期の防除が重要となります。

1. 発生生態

イチゴに寄生する主なハダニ類には、ナミハダニやカンザワハダニがあります。発生の要因としては、苗からの持込みが最も多く、その他に周辺部からの飛来や、人為的な持ち込みがあります。

最初は下葉に数匹で寄生していますが、増殖がはやく個体数が急増します。例えばナミハダニの場合、気温 25℃ では、約 10 日で成虫となり、1 頭が 1 日当たり数個～10 数個の卵を、10 日～2 週間ほど産み続けます。しかし、隣接する株への移動は比較的遅いため、スポット的に被害が見られることが多くなります。

冬期の発生は少ないですが、3 月以降は気温が上昇するにつれて発生が多くなるため、冬期に密度を低く抑えることが重要になります。また頂果房の収穫末期の新葉展開時に新葉が加害されると、葉がわい化し収量の減少につながるため、注意が必要です。

2. 近年及び本年の発生経過

当所の調査において、ハダニ類は平成 15 年に発生が多くなりました。これは 11 月以降、平年より気温の高い日が多かったため、発生が助長されたものと思われます。今年の 11 月下旬現在の発生は、平年よりやや多く、また 12 月の気温も平年並か高いと予想されており、多発生しやすい条件となっているため、注意が必要です。

3. 防除対策

- 1) 発生初期はスポット的に発生していることが多いため、圃場全体をよく観察することが大切です。
- 2) 発生初期には下葉に寄生しているので、新葉の展開にともない下葉かきを行なうと効果的です。なお取り除いた下葉はビニール袋に入れ、圃場外に持ち出し、土中深く埋めて処分してください。
- 3) 発生が多くなると防除が困難となるので、初期防除を心がけてください。
- 4) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション散布をこころがけましょう。また、薬剤は、十分な量で葉裏や葉柄までよく付着するよう丁寧に散布しましょう。

・今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 11月24日から12月23日)

気象庁(11月23日 発表)

< 向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率(%) >

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	20	40	40
降水量	関東甲信全域	30	30	40
日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

天気は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は平年並または高い確率ともに40%です。

< 1週目の予報 > 11月24日(土曜日)から11月30日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 60%

< 2週目の予報 > 12月1日(土曜日)から12月7日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 40%

< 3週目から4週目の予報 > 12月8日(土曜日)から12月21日(金曜日)

気温 関東甲信地方 低い確率 40%

・テレホンサービス

下記の情報を24時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために、病害虫の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

電話番号：029(226)5321, 6131

12月上旬期 イチゴおよび促成ピーマンにおける病害虫の発生現況と防除対策について

12月下旬期 施設野菜病害虫の発生現況と防除対策について

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず、良く洗浄しましょう。